

オンラインボードでワークインプロGRESSを共有

概要

文化活動が企画され、実現され、社会の中で共有されるプロセスを公開するために、オンラインのボードを作成した。新型コロナウイルス感染症によるパンデミック下において、他のあらゆる活動と同様に、文化活動も、その時々々の社会状況やさまざまな要因の影響を受けながら展開されている。文化活動が、予期せぬ変更や中断・延期などに、どのように対応しながら進んでいるのかを、可能な範囲で公開することで、「完成したものを消費する」という形だけではない、その過程も含めて文化活動に接続するチャンネルを作ることができるのではないかと考えた。また、展覧会など、ある程度の期間行われている活動の場合、自らが参加した特定のモーメント以外のときに、どのような物事が展開していたのかを、オンラインボードを通じて知り、継続的な関心を持つことにも繋がる。

テクニカルノート

現代美術展「SHOW-CASE project No.4 河口龍夫 鯉呼吸する視線」のオンラインホワイトボードを例に説明する。

<https://app.milanote.com/1Jxe2J1TVMZy2i>

プラットフォーム

オンライン・ホワイトボードツール「Milanote」<https://milanote.com/>

ホワイトボードツールとしてよく使われている Miro (<https://miro.com/ja/>)、Milanote を比較検討した。

モバイル、音声メディアへの対応状況に加え、アクセスした時の表示速度から、今回は Milanote を選定した。

ボードの設計作業

ホワイトボード全体のレイアウトを設計する。左から右に時系列に並べていくレイアウトとし、冒頭に展覧会の概要を置き、新しい情報を右に追加していく。

さまざまな情報は、写真も含めカード形式にまとめ、そのカードを時系列に配置する。必要な場合はカード相互に矢印で接続することにより、相互の関係性を示した。情報の大分類は、カードの色で示した（黄色：展覧会やミュージアムの活動、赤色：社会も動き、橙色：ミュージアムに関する動き、紫：ミュージアムの所属組織の動き）

更新方法

Milanote の操作方法は単純で、カード (Note) を作り、テキストを入力するのが基本的な操作となる。画像、映像、音声は、ドラッグ&ドロップで取り込むことができる。

メインのボードで直接作業をすると、公開したボードに即時反映されてしまうので、別のボードにカードのテンプレートを用意した。カードを複製し、テキストや画像などを付与して完成させたあと、メインのボードにコピー&ペーストで貼り付けるワークフローを設計した。

効果と改善点

ホワイトボードは、拡大縮小が可能のため、情報の一望性が高く、企画運営者にとってもプロジェクトとの全貌をつかむために有効だった。また、ホワイトボードに蓄積される情報は、通常であれば Twitter や Instagram に掲載される「フロー型」の情報である。これらのフロー型の情報が、「ストック型」の情報として可視化され、アクセス可能になることの意味は大きい。

「完成した形だけでなく、その過程から文化活動に接続するチャンネルを作る」という当初の目的に加えて、文化活動の過程が、オンラインボードによって可視化されることによって、教育分野での利用の可能性も感じる事ができた。

一方で、アクセシビリティの面では課題が残る。Milanote は、モバイル端末に対応しているが、モバイルでの視認性が低く、また表示のされかたもパソコン画面と大きく異なる。今後、モバイルでもボードが再現できるツールを引き続き探していきたい。

参考：ツールを探すためのウェブサイト

これからの時代のミュージアムで、どのような技術が使われていくのか。実験的なものも含めて、最近の動向を知るためには、ミュージアムにおけるデジタル技術の活用をテーマにしたカンファレンスでの事例が参考になる。

MuseWeb <https://www.museweb.net/>

MuseumNext <https://www.museumnext.com/>

上記のうち、「Museum Next」は大型館の参加が多く、より「文化観光」的な側面からミュージアムの体験を見る傾向がある。

また、ミュージアムをテーマとしていないウェブサイトでも、隣接領域のウェブサイトには注目すべきものがある。

例えば、(K-12) 教育のためのツールを集めたウェブサイトも、とくに教育普及系の試みには転用できる。

Common Sense <https://www.common sense.org/education/>

"Common Sense is the nation's leading nonprofit organization dedicated to improving the lives of all kids and families by providing the trustworthy information, education, and independent voice they need to thrive in the 21st century."

ミュージアムに転用できるツールの例

Book Creator <https://bookcreator.com/>

デジタル・ブックを作るためのツール。出品作品や資料を使ったワークショップに活用できる。

Sutori <https://www.sutori.com/en/>

タイムライン形式で、テキストや画像を組み合わせ、配置できるツール。質問項目も追加することができ、またタイムライン項目の一つ一つを全画面プレゼンテーションすることができる。

コレクションデータベースと組み合わせると、キュレーションのワークショップなどに利用可能。

CoSpaces <https://cospaces.io/edu/> <https://www.youtube.com/watch?v=xQU60KryO2E>

簡単にVRコンテンツをつくらることができるツール。作品の写真を張り込み、仮想的な展示室を作るワークショップなどに利用可能。